

私たちは、おかげさま、おたがいさまの気持ちで、「私たちの好きなまちは私たちでつくろう」を合言葉に、市民協働による暮らしやすいまちづくりを進めます！

# 市民協働指針(ダイジェスト)

## 市民

市民一人一人が、日々の生活の中で生まれる課題において、地域活動や市民活動への理解を深め、自分自身のできることからまちづくりに参画することが大切です。そのためには、自分ができることから始め、一歩踏み出す活動を行うことが必要です。

また、企業は地域の一員及び企業市民として、社会貢献活動(企業メセナなど)やまちづくりに積極的に参加するとともに、地域・市民活動団体等に関する育成的な機能を発揮することが必要です。

## 地域(自治会など)

地域の防災・防犯・環境・福祉などの共通する課題の解決のためには、市民の地域活動への参加や世代間交流を促進し、市民活動団体等との連携を図り、地域住民の親睦融和を深め、地域でできることは地域で解決する仕組みを作り出すことが必要です。

## 市民活動団体等

市民活動団体は、自主・自立による活動のもとに、地域や他の活動団体と協働・連携することによって、自らの市民活動を活性化することが必要です。

## 行政

新たな住民自治の確立に向けて、「協働のまちづくり」を推進するためにも、研修等を通じて職員の意識と能力の向上を図るとともに、職員も一人の市民として、市民活動等へ積極的に参加し、情報の共有化等に努め、「行政主導」から「協働型」の総合行政運営に移行させることが必要です。

市民協働の拠点として！

平成19年4月市民活動センター開設予定

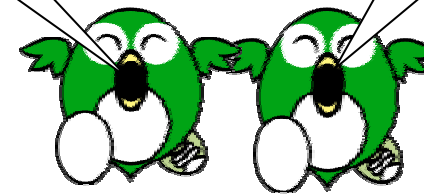
みんなで一緒に一歩踏み出そう！！

平成19年2月



おかげさま

おたがいさま



## きっとすき

「おかげさま・おたがいさま」の気持ちを大切にしながら「私たちの好きなまちは私たちでつくろう」を合言葉に、「とす」を好きなみんながまちづくりに参画すれば、きっと「とす」のことを好きになる。

## ずっとすき

今私たちが好きな「とす」をずっと好きでいたいから、自信をもって次世代の子どもたちに引き継ぐために、今からみんなで「協働」によるまちづくりを進めていきましょう。

## なんばすっともっとすき？

役割分担しながらお互いの立場を理解し、尊重し、力を合わせてより良い「とす」にしていけるように、もっともっと「とす」を好きになれるように。

「協働」によって新たな【き・ず・な】が生まれますように

鳥 栖 市

## 「協働」ってなに？

「協働」とは、

元来、地域社会が持っていた地域の力を新たな形として取り戻すための手法であり、この指針の中では、「市民、市民活動団体、地域、行政がそれぞれの特性や資源（人・物・金だけではなく地域の歴史文化など）を活かし対等な立場に立って、協力し合い共通する地域や社会的課題の解決に当たること」と定義いたしました。

「きょうどう」というと、共同事業や共同開発などの「共同」、や協同組合の「協同」が一般的です。そもそも「協働」という言葉は、行政学用語でアメリカの政治学者が「地域住民と自治体職員が協力して自治体政府の役割を果たしていく」という概念を表す言葉を日本語に置き換えて「協働」と言う言葉に当てはめたとされています。また、一般的に「協働」とは、「複数の主体が、目標を共有し、ともに力を合わせて活動すること」と言われています。

元来、地域には地域の課題を自分たちで解決し、決定していく機能が備わっていました。地域の一員として、お互いが快適に暮らすための環境美化や相互扶助といった仕組みがごく普通に機能していました。しかし、高度経済成長社会の進展に伴い、行政ニーズの多様化と同時に地域の仕組みも個人の価値観の多様化や住民の流動化などからその機能は縮小してきました。

## なんで今「協働」なの？



地域ではこんな課題が・・・

- 地域社会における課題解決に向けたコミュニティ意識が希薄化している。
- 既存の地域組織が衰退化しており、組織の活性化と新たな地域課題解決の仕組みづくりが求められている。
- 地域活動への市民参加が減少し、地域活動リーダー等の人材育成が進んでいない。
- 新旧住民の交流が少なく、相互の理解が生まれにくい。
- 特に若年層の地域活動への参加が少なく、地域運営に活力がなくなっている。

市民活動ではこんな課題が・・・

- 市民活動や市民活動団体への市民の理解が進んでいない。
- 市民活動団体や活動内容の情報が市民に対しうまく情報発信されておらず、なおかつ、その仕組みが確立されていない。
- 市民活動を担う新たな人材の育成が進んでいない。
- 企業の社会貢献活動と市民や市民活動団体との連携した活動が求められている。
- 新たに市民活動を始めようと考えている人たちのニーズがつかめない。
- 新たに市民活動を始めようと考えている人たちにとってきっかけがない。

そして鳥栖市では・・・

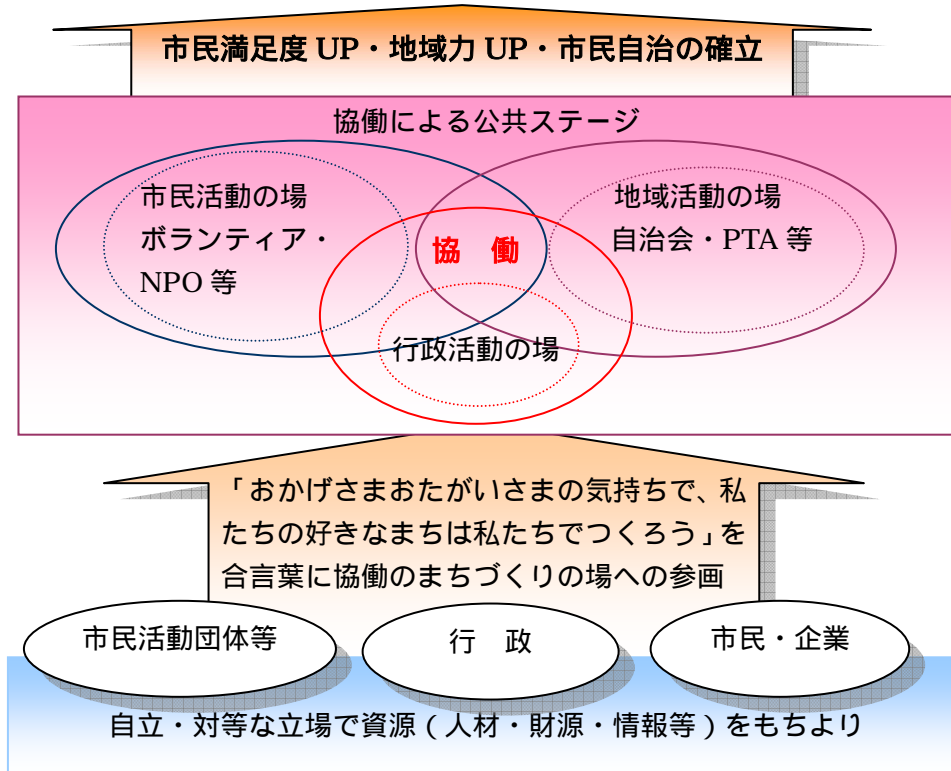
鳥栖市の現状は、全国レベルあるいは佐賀県内の状況からみても、財政面等において決して逼迫した状況ではありませんが、今後、次世代に引き継ぐためのまちづくりを進める上で、さまざまな課題を克服していくことが求められています。

しかし、これらの課題を解決するための原動力として大いに期待されている地域や市民活動については、その活力が不足している現状です。少し体力に余裕のある今こそ、協働のしくみを確立するチャンスなのです。

## 協働で目指す姿は

・目指すべきまちづくりの姿（イメージ図）

市民として住みよさを実感し、誇りを感じ、暮らしやすい地域社会を目指し、次世代に責任をもって引き継いでいけるまち



## 協働するためには

・市民協働を進める上での原則

協働の関係においては

対等の原則（上下関係はない） 相互理解・説明責任の原則（立場の違いを理解し、協力し合う関係）  
自主性・自立性の原則（支え合う関係） 自然体の原則（自分自身でできることから）

協働を進めるためには

話し合いの原則（一方的押し付けではなく役割分担する） 学びあいの原則（次の新たな使命に挑む）  
発議自由の原則（提案は誰からでも可能） 情報共有の原則（情報を共有し、資源を活かす関係）

協働の成果を高めるためには

時限性の原則（目標達成期間の設定） 公開の原則（透明で、開かれた活動） 目的共有の原則（何のために協働するのか）